

ご難続きの盆と正月

数日前から右の歯の奥がすこし痛かったが、昨日からは頬が腫れ気味となり、今朝になると腫れは一段とひどくなった。運良く年末まで開院していた歯医者に行き、とりあえず処置してもらった。腫れはこれからがピークのように、年越しから正月が思いやられる。お盆にも左の頬が見事なほどに膨れ上がった。あの時の方がとにかく痛かったが、こうして連続して歯痛（顔面の痛みと突っ張り）に悩まされるとは。

じつは昨年未にも、耳のヘルペスにより正月まで痛い目にあつた。めまいと耳の痛みは忘れられない。耳の聞こえはよくなったが、腰痛のせいもあるが、今でもふらつくことがある。行きつけの散髪屋の奥さんも、耳のヘルペスを患い入院したそうだ。何日間も休業していたので、気が気ではなかった。「同病相哀れむ」の心境だが、回復して綺麗に散髪してもらい嬉しかった。

病気の話ばかりで恐縮であるが、どうも盆と正月というように、半年ごとに痛い目にあっている。これも歳のせいだろうか。「ご難」続きの年の瀬だが、今朝の中日新聞を読んでさらに気が滅入った。1面に「理学部の新設 名市大が構想 ノーベル賞で人気」とある。環境に特化した理学部構想は確かに検討されており、ノーベル賞人気に引っ掛けた記事のようだが、その「出所」が気になる。

腹が立つのは、最後の5行で「11年度にも文部科学省に認可を新設する意向だが、人文社会学部の教員を削減するなど組織再編も進める」と書いてあることだ。理学部はさておき、なぜ人文社会学部が槍玉にあがるのか。この記事だけ読むと、9月にレポートで懸念していた事態が進んでいるように見える。当事者には情報が伝わってこないが、それと環境省OBや世界的科学者や名物教授の「スカウト」も目指すと書かれている。理学部を構想する人たちは、こんなことを了解しているのか。誰が「スカウト」を目指すのか。歯痛と頬の腫れを気にしながら、これを書いていると、また腹が立ってきた。迷走・劣化する政治の世界とともに、わが大学・学部の前途が心配でたまらない。早く元気にならなくては。

(2009年12月29日 記)